

薬物乱用防止・不審者対応教室

2017. 12. 12 (ヨシクマ新聞より)

不審者からの逃げ方も

五郷 児童生徒が防犯対応学ぶ



【尾崎係長（中央）から不審者対応を教わる中学生】

熊野市五郷中学校（高田有治校長）で12日、薬物乱用防止教室と不審者対応教室が開かれ、生徒や五郷小学校の児童ら防犯意識を高めた。

熊野署の尾崎規文生活安全係長ら署員を講師に招き実施。

中学生6人と五郷小5、6年生4人、教職員らが参加した。まずは薬物乱用防止教室が行われ、児童生徒が薬物乱用の危害に対する正しい知識などを教わった。児童生徒らは薬物乱用が体や心に及ぼす恐ろしさを改めて知り、誘惑への対処法を身につけていた。

また、不審者対応教室ではさすまたの使い方について署員から「さすまたは犯人を捕まえる道具ではなく、身を守るもの」と説明を受けた。尾崎係長は不審者に腕を掴まれた時や、後ろから抱きつかれた場合の護身術も実技指導。児童生徒らは力の強い相手でも、テコの原理や体のバランスを活かして逃げるコツなどを実際に体感していた。



【腕をつかまれた時の逃げ方を練習】



自分の身を守るのは、まずは「逃げる」ことが基本。「護身術」は逃げるための手段であると教えていただきました